

レスキュー艇「レーザー丸」使用マニュアル

(レスキュー艇の準備)

① タイヤ止め、オーニングを外します。外したオーニングは、畳んで艇の前側に置いておきます。

②コックピット前側収納場所にあるバッテリーを確認します。メインスイッチが off になっているので、それを on にします。(使用後は必ず off にして下さい。)

バッテリーが機能していると、船外機チルトが動きます



③ レスキュー艇の鍵を取り付けます。

鍵は座席の下の箱に入っています。使用後は必ず元の位置に戻して下さい。(スペアキーはレーザー倉庫の中に入ります。) レバーに付いている船外機チルトを動かし、バッテリーが機能しているか確認します。



④ガソリンの量を確認し、必要なら予備タンクから補充して下さい。空気弁は常に空けておいて下さい。(閉めたままだと、空気が膨張して、タンク破損につながります。



⑤ レスキュー艇のドレインコック (2ヶ所) を閉めて下さい。外側と、内側2ヶ所閉めて下さい。閉め忘れるとな、大変なことになりますので注意！！

(外側)



(内側：オートビルジの手前)



⑥ フリートの倉庫から運営ボックスを準備します。中に入っている ア) フォグホーンの確認、イ) コンパス ウ) フラッグ類、エ) 竹竿 4 本を準備します。確認が終わったら、桟橋に持っていき、下架後、桟橋で積んで持っていきます。

持っていくフラッグは（オレンジ旗、レーザークラス旗、U 旗、回答旗、N 旗、黒色旗、第 1 代表旗、S 旗、C 旗）です。

⑦ フラッグを竹竿に結び、養生テープ等で補強します。海上に行ってからは作業が難しいので、陸でセット完了してから移動することをお勧めします。

⑧ レスキューポートのリフター下への移動

移動は 3 人以上で、声を掛け合って行います。船体固定ラッシングベルト、輪留め取外しを確認して下さい。

⑨ リフター使用時の注意点

・スリングベルトの取り付けをします。前側はバウ側ハッチ内に常時接続、後ろ側はシート下に収納してあります。接続時、フックが内側を向くように、またねじれていなことを確認して下さい。クレーンで吊る際の中心点は、シートの前端部分です。



・もやいロープ、フェンダーの準備をし、チューブや船外機に干渉しないようにもやいロープを持ちながら、下架してください。着水後、スリングベルト前側⇒そのまま収納する、後ろ側⇒取外して、シート下へ

上下架時の注意点は下記の通りです。

- ・吊り下げベルトが捻じれないよう注意（均等に荷重がかからないと危険）
- ・ベルトのフックが正しく艇のアイに装着されていること（アイが破損するリスクあり）
- ・バウとスターンのガイドラインがゴム面と擦れないように注意する。

⑩いったん桟橋に移動し、必要な物と人を載せた後、海上へ出ます。離岸前の確認事項です。

- ・乗員ライフジャケット着用確認（桜マーク）
- ・船外機チルトダウン
- ・離岸後フェンダー及びもやいロープ収納
- ・キルスイッチ装着

運転者はキルスイッチ（赤いコード）を手首に巻くか、身体の一部に必ず付けて走行して下さい。万が一落水した際、エンジンが停止します。キルスイッチを付けていなかったためにコーチボートが選手に突っ込み、死亡事故が起きた例もありますので、必ず装着して下さい。



（海上での注意点）

上下船時の注意点　・ゴム面には極力乗らない。

着艇時の注意点　・ゴム面を桟橋で絶対に擦らないこと。

係留時の注意点

- ・バウロープはハルのアイから取る。
- ・スターイン及びゴムのロープアイから複数のロープを使用して係留することでアイへの負担を軽減する。
- ・フェンダーを機走時はゴム内側に入れる。

アンカー使用時の注意点

- ・アンカーをゴム面にぶつけない。ロープも同様。複数名でスターインから引き揚げた方が無難。
- ・アンカーロープは可能ならハル側のアイから取りたい。（アイから3m程度の箇所に輪を作りバウデッキにつながる引き上げ用ロープを結ぶ）
- ・やむを得ずバウハッチからバウデッキ経由でアンカーラインを落とす場合は必ずバウのガイドに添わせる。（バウの空気圧に注意）
- ・艇のアンカーは引き揚げたら直ぐにバウハッチに格納する。マークアンカーは籠に収納し床に転がさない。

操船時の注意点

- ・前進から、すぐリバースに入れないと、ギアやワイヤーを痛めます）

（帰着後、レスキューボートの手入れ等）

①桟橋に着艇し、リフターの依頼をしに行く。船台をベースから移動させ、リフターの下にセットする。

⑨リフター使用時の注意点

- ・スリングベルトの取り付けをします。前側はバウ側ハッチ内に常時接続、後ろ側はシート

下に収納してあります。接続時、フックが内側を向くように、またねじれていなことを確認して下さい。クレーンで吊る際の中心点は、シートの前端部分です。



- ・もやいロープ、フェンダーの準備をし、チューブや船外機に干渉しないようにもやいロープを持ちながら、上架してください。上架後、スリングベルト前側⇒そのまま収納する、後ろ側⇒取外して、シート下へ
- ・船台に乗せる時は船台中心とキールラインを合致させる（ハルはレーザー並みに弱いと思ってください）
- ・吊り下げベルトが捻じれないよう注意（均等に荷重がかからないと危険）
- ・ベルトのフックが正しく艇のアイに装着されていること（アイが破損するリスクあり）
- ・バウとスターンのガイドラインがゴム面と擦れないように注意する。

- ② 3人以上でベースに移動させ、ストッパーをかける。
- ③ ドレインコックを開け、塩出しする。
- ④ エンジンを塩出し、洗剤を使用し、艇をブラシで洗う。（モーターフラッシャー、ブラシ、洗剤は収納ボックス内にあります）



- ⑤ ガソリンコックを閉め、メインタンクが満タンになるよう、予備タンクから補充します。空気弁は常に空けておいて下さい。（閉めたままだと、空気が膨張して、タンク破損につながります。）

予備タンクが空になった場合は、ガソリンスタンドに行き、購入して下さい。フタをしっかりと閉めて下さい。



ガソリンスタンドは、セルフ式スタンドでは購入できません。

「海洋体育館から北へ、国道43号線打出交差点を左折して500mほど西へ走ったところにあるエネオスがいいです。（京都アニメ事件後、携行缶へのガソリン購入の際は免許証提示が必要です）ガソリン費用は一旦立て替えていただき、レシートを荒川さんにお渡し下さい。クラブ会計からお支払いします。

D r . D r i v e 芦屋セントラル S S 朝日石油 (株)

住所 : 芦屋市竹園町 1-25 電話番号 [0797-32-1024](tel:0797-32-1024)

- ⑥ エンジンのメインスイッチを off にして下さい。
- ⑦ エンジンの鍵をシート下へ収納して下さい。
- ⑧ ストップバーの確認をし、オーニングをかけて下さい。

ポートカバーの注意点

- ・カバーはピンと張りすぎない
 - ・雨水がカバーに溜まらないようデッキ面を合板等で 水平にすることを勧奨します。
 - ・コクピット後部のアカ抜き孔は開けておく（雨水が溜まり船台と接するハル面に負荷がかかります）
-
- ⑨ 海洋体育館へ着艇の報告をして下さい。
 - ⑩ 運営道具を倉庫へ運び、塩出しをして下さい。

(閉会式関係)

- ・閉会式の時間設定、参加者への連絡
- ・成績発表、(ある場合は) スポンサーからの賞品
- ・成績集計担当の確認、成績はエクセルシートに入力し、
 - ①メーリングリストで発表
 - ②西野さんにホームページ掲載のお願い

手順は以上です。ご安全に！！

よくあるトラブル

- ・船外機が始動しない「スターーが動かない」

スロットルレバーのニュートラル位置、キルスイッチの取り付け方法が不良
バッテリーあがり。

- ・船外機が始動しない「スターーは動く」

- ・燃料タンクの空気弁の開け忘れやガス欠によるホース内の空気混入
(プライマリポンプでのポンピング)

- ・チューブの破損

「離着岸時」の操船ミスによる発生がほとんど
「アンカー作業時」特に回収時
「ボラの乱入」背びれの骨が刺さる（これは防ぎようがありません。）タオルや消火バケツなどを使用して排除。

- ・ドレンプラグ及びドレンホースの閉め忘れ

- ・オートビルジポンプの故障、ごみや髪の毛の巻き付きによるモーターの焼け付き

- ・走行時ロープが流れプロペラに巻き込む

もやいロープの固定 特にバウ側は
流れてしまうと見えなくなり、気が付
きにくい。



- ・揚降時スリングベルトフックのはずれ

スリングベルトにテンションがかかる
時にフックがねじれていなか取付
確認

